



神社関係者大会での金美齢氏の講演



発行所
 三石神社社務所
 神戸市兵庫区
 和田宮通3丁目2-51
 TEL (078)671-2531
 FAX (078)671-7667
 E-mail info@mitsuishi.or.jp
 URL http://mitsuishi.or.jp

○ご家庭・会社事務所に神棚を祀りましょう。
 ○お伊勢さんのお神札（神宮大麻）と三石さんのお神札を合せ奉斎しましょう。
 ○ご神札は、毎年末もしくは新年に新しく改めてお祀りしましょう。

御即位二十年と政権交代

三石神社 宮司 小林 友博

師走の候、氏子崇敬者の皆様におかれましては、ご健勝にてご活躍のこととご同慶に存じます。又、年頭の正月より一年間各種神事行事に対しましてご崇敬ご奉獻を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、本年度で天皇陛下御即位二十年の佳節を迎えられました。当社社界では県内の神職・総代など約五百名が参集し、九月七日に御即位二十年を奉祝する神社関係者大会を、国生みの地・淡路島の洲本市文化体育館で開催いたしました。

式典では皇室敬慕の念の喚起と神宮崇敬の誠の発現、神社奉護のさらなる展開に努める旨の大会宣言も満場の拍手で採択し、聖寿万歳を奉唱いたしました。更に、記念講演では、元台湾総統府国策顧問でJET日本語学校理事長の金美齢氏が「美しい国 日本」と題し、日本が国土も国民の心も美しい国であり、また神代に連なる天皇を戴いてきた歴史が世界に誇るべき存在であることを強調され、その歴史・伝統文化の継承発展に向けて神社関係者が果たすべき役割は重要であるとの講演を拝聴し、改めて神明奉仕に奮起したいと存じた次第であります。

ところで、先の総選挙は民主党の大勝で終り、新政権が誕生いたしました。自民党政権での、首相等の早期退任や官僚等の不祥事・年金問題等々緩んだ政府に対する国民の不信と不満の中、政策上の争点よりも、政権交代・国民の生活が第一という掛け声が行先し、国益に関する外交や安全保障の基本問題があまり議論されなかつたのが残念であるが、我国も漸く二大政党による政権交代時代に入ったようであり、神社界の政治団体である神道政治連盟が主張する、皇室と日本の文化伝統を大切にす社会づくり、新憲法の制定、靖国の英霊に対する国家儀礼の確立、心豊かな子供を育む教育の実現、世界に貢献できる国家の確立等々の諸問題に新政権はどのような対応をするのであろうか期待しつつ注目したいと存じます。

結びに、今後とも皆様様のご家庭・会社事業所が、伊勢神宮又三石大神様の大きいなるご加護のもと、更なる御隆昌と各位がご健勝ご多幸にて日々お過ごしになられますよう心より祈念申し上げます。

平成二十年十一月

七五三詣祈禱齋行

十一月中、七五三詣祈禱を齋行した。

近年、十一月十五日を中心とする七五三詣観念はレンタル衣装の関係等で薄らいでいるようで、当社でも十月中に参拝する家族が増えて来ている。

当社では七五三に当たる子供さんの玉串奉奠や、拝殿内での記念写真撮影も行い、千歳飴やおモチャ・風船・おみやげセット等の他に三、五歳用としてアンパンマンバック、七歳用としてリラックマバック等の記



特設スタジオでの記念写真

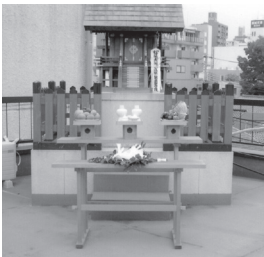
念品をお渡しして大変喜ばれました。期間中の土・日・祝日には会館二階に特設写真スタジオを設け、記念写真を撮っていただけできるよう設備しています。また、お宮参りにもご連絡頂ければスタジオを設備いたします。

神戸小売酒販組合・酒徳祭齋行

三日、中央区下山手通にある神戸小売酒販組合の守護神・松尾神社酒徳祭を齋行した。

同組合は市内にある約五〇〇の酒販店で組織され、小売酒販の情報享受をはじめ相互扶助、経営研修など組合店の発展を促進する活動を行っている。

屋上の御社は、約十年ほど前に建立され、それ以来毎年祭典を執り行うと共に、お酒の神様を祀る京都・松尾大社に毎年新神札受領に役員一



同が参拝もしているが、同組合の三橋副理事長は、当社の総代



御社と拝礼する三橋副理事長

であり、その関係で本年より酒徳祭を奉仕することとなった。

当日は、組合員約三十名参列のもと岡理事長らが玉串拝礼して、酒販制度の規制緩和で経営の厳しい現状ではあるが、今後更なる組合店の繁栄と組合の発展を祈願した。

神前結婚式齋行

二十三日の祝日、新郎新婦はじめ二十三名参列の殿内結婚式が執り行われた。

新郎の吉岡氏は、平成十九年の例大祭神幸式の猿田彦として奉仕した際、新婦と知り合った関係で特に当社のご神前を希望し、この度の挙式

となったものである。

当日は、羽織袴姿の新郎と白無垢花嫁衣装の新婦は、三三九度・指輪交換・誓詞奏上・玉串奉奠と式次第通りの進行に緊張した二人であった。式後、社殿前で親族も入つての記念写真を撮影した後、ハーバードの披露宴会場へ移った。

お二人の人生に幸多かれとお祈りした次第である。



三三九度する新郎新婦

平成二十年十一月

現地工事安全祈願祭齋行

一日、三菱重工グループ会社であり、各種環境装置機器の設計・建設・改造修理をはじめ、それらの技術指



奉納された絵画「風の詩」

導・技術サービスやコンサルタント等々を事業とする三菱重工環境エンジニアリング(株)環境プラント事業本部(当時―現在社名変更)の前川取締役事業本部長他十五名が、現地工事安全祈願参拝に来社した。
前川事業本部長に続き、特に集塵プラント部長・同サービス部長らも玉串拝礼して、集塵部門の現地工事や関係協力会社に至るまで、年末年始の無事故完遂と社員の安全・健康更に社運隆昌を祈願した。

絵画奉納

作品は東京銀座での個展に出品された洋画(油絵)六〇号の大作で、「風の詩」と題され、花の咲く木立ちのトンネルを中心にして、町並みと海が遠望される情景絵画で、緑・黄・ピンク・白を主体とした色使いでメ

ルへん調の心癒される作品である。奉納者である洋画家の南和恵先生は、市内在住の二紀会同人であり、神戸市文化功労者(文化活動功労賞)表彰も受けられ、全国的に著名な女流洋画家である。また画家活動と共に市立農業公園で、亡夫の陶芸家(神戸焼末汎窯)南汎先生の後継者として神戸焼を継承し、同所又各地で陶芸指導も行っている。

宮司が、舞子焼(現・神戸焼)作品を求め同所を訪問したのがきっかけで交誼が始まり、当社移転鎮座百周年記念品や禰宜の結婚引出物、また同窓会記念品等の陶器製作を依頼した。

殊に先生は、神功皇后を祀る神社に尊崇の念高く、この度の奉納となったものである。

平成二十一年一月

年頭氏子崇敬者繁栄祈願祭齋行

正月四日、第二十七回目となる「氏子崇敬者繁栄祈願祭」が大寺眞理子市会議員を始め総代・氏子崇敬者三十名の参列のもと厳かに齋行され、今年一年の各位の安寧と繁栄を祈願



氏子崇敬者による米川氏民謡保存会による「朝顔節」と、徳之島の「シマ朝花節」の民謡二題が奉納された。

した。本年の神前奉納は、当社の崇敬者美徳之鳥民謡保存会ばしゃ山会会長であり、関西奄美民謡芸能保存会本部役員でもある米川宗夫先生による奄美大島の「朝顔節」と、徳之島の「シマ朝花節」の民謡二題が奉納された。

救急センター竣工式齋行

十六日、兵庫区御崎町の神戸百年記念病院内で、(株)クニ工務店に施工させていた救急・通院治療・医療機器の各センター拡充(リニューアル)工事竣工式が斎行された。

今回の救急センターの稼働により、十分な救急車搬入スペースもつた救急診療室や二部屋の点滴室も新しくオープンさせ、迅速な処置も新しい診断が可能となった。

鳥居前での記念写真

から歌う曲は、どちらも琉球の歌詞の形式八・八・八・六音の琉球形式からなっている。二曲の最後の歌詞は同じで、共通に歌われる



オープンを紹介した病院広報誌「すこやか」



中田工業での月例神棚祭

本社所在地は兵庫区御崎本町で、三菱重工神戸造船所の協力会社として船舶修理業を営む中田工業(有)では、

会社月例安全繁栄祈願神棚齋行

平成二十一年一月

後の救急診療体制の安全と信頼確保・医療向上を祈願した。祭典後、楠院長は、祝詞の中に医療の神様である少彦名神が奏上されたが、この神様のご守護を受けつつ、この救急センターが地域の人たちの安心と信頼を得、地域になくなくてはならない病院になるようスタッフ一同頑張りたいと挨拶された。

毎月二十日に三菱神戸造船所構内事務所に祀る神棚で社員の無事故を祈願する会社安全繁栄祈願祭を齋行している。

先代中田社長が三菱神戸造船所の協力会社として会社を興した、昭和五十二年頃より現場事務所に三石大神奉斎の神棚を祀った。

神棚祭では、中島社長と事務員が参列、玉串拝礼して安全と繁栄を祈願した後、社員三十五名の休憩所を切麻でお祓いして、一人一人に安全意识の向上を計っている。

平成二十一年三月

宮司神職身分二級上に昇進

宮司が十日付の神社本庁辞令により、神職身分二級上に昇進した。

神職の身分は特級、一級、二級上、二級、三級、四級の六等級があり、二級上に昇進する基準として、身分二級の神職で正階以上の階位を有し、二級になってから十年以上勤続した者のうち成績優秀な者として、神社庁長が内申し、本庁の身分選考委員会の選考を経た者とされている。又、神職の階位は浄階、明階、正階、権

正階、直階の五階等がある。神職は身分・階位により祭祀服装が規定されていて、二級と二級上身分の正装(正服)のうち、冠・袍等は変わらないが、二級上に昇進すると袴が紫平絹から紫固織(文藤の丸共緯)を使用することができ、すなわち、無地の紫袴から紋入紫袴の着用が許されることである。

現在の県下の神職数七九一名のうち二級上以上の神職は九七名であり、神戸市内では神職数一七六名のうち二八名が二級上以上の神職である。



二級上用の袴

平成二十一年五月

インフルエンザによる神幸式の中止

二十二〜二十四日の三日間、恒例の例大祭を齋行する予定であったところ、新型インフルエンザの神戸発生に伴い、神戸まつりも急遽中止となり、高・中・小学校も一週間の臨

時休校となった為、例大祭齋行の可否について十七日、臨時総代会を開催した。

一週間後に迫った土・日曜行事である子供みこし巡幸と神幸式は、地元中・小学校生多数の奉仕によって齋行しているが、休校中に奉仕を願うことも不見識であり、止む無く中止することに決定した。合わせ六月三日の氏子崇敬者との神功皇后御陵参拝旅行も中止することとなり、各自治会をはじめ、猿田彦会・学校等神幸式奉仕関係者や警察・ガードマン会社等へ急ぎ中止の旨を連絡した。

尚、二十二日の御殿における例祭は、例年通り午後六時より、区内宮司三名の助勤奉仕と高田総代はじめ二十五名の氏子崇敬者参列のもと厳粛に齋行され、皇室の弥栄・氏子崇敬者の安泰を祈念した。

平成二十一年八月

宮司保護司就任

この度宮司は、地域先輩保護司の推薦により、五月十八日付で保護司に就任したため、五日、市水道局たちばな職員研修センターで開催され

た新任保護司研修会に参加した。

保護司は、法務大臣が委嘱した更生保護のボランティアで、犯罪や非行をした人の立ち直りを助けるとともに、犯罪予防の活動に取り組んで地域の安全・安心に貢献する人になっています。

まだ研修中で対象者を担当していませんが、この研修で犯罪者の再犯予防と、更生保護という大変な重責を持つ保護司の務めを痛感した。

今後、研修と研鑽を深めより良い社会のため、保護司活動という社会奉仕に務めたいと考えています。

出張結婚式齋行

二十一日、中央区海岸通にあるザ・チャータードスクエアで、当社高田総代のご長女の結婚式を奉仕した。

式場は神式でなくチャペル風式場であったが、特に新郎新婦の希望もあり、チャペル風を布等で覆う等して、出張祭壇・玉串案等々を設けて神式挙式場に模様替えして齋行した。

巫女は、神社奉仕経験のある新婦の友人が勤めた関係もあり、羽織袴姿の木下新郎・白無垢花嫁姿の新婦達は三三九度・指輪交換・誓詞奏上・

玉串拝礼と緊張した面持ちではあったが式次第通り進行した。

神殿を祀っている神式挙式場ではそのまま祝詞奏上が出来るが、この度は神籬を立てての挙式であり、降神の儀から始まるという式次第であったが、同席した披露宴出席者も初体験ながら厳肅な挙式に感銘を受けたようであった。三石大神の御神威をうけられたお二人のご多幸をご祈念いたします。



三三九度の新郎新婦

平成二十一年七月

夏越祭(夏祭り) 齋行

十七・十八日の両日、相殿に祀る素盞鳴大神の夏越祭を齋行した。



昨年の茅の輪くぐり神事

十七日午後六時からの祭典は総代・氏子崇敬者二十一名の参列で、例年通り上野順子琉球舞踊研究所神戸支部員による琉球舞踊二曲(日傘踊り・前の浜)が神前奉納された。

境内に設けた「大茅の輪くぐり」神事は雨天のため、後刻各位が行ない、夏の無病息災を祈願した。

直会の時、茅の輪に用いる「ちがや」を使って家庭に祀る「茅の輪」を参列者各自で作る「蘇民将来子孫」の神札を付けるお守り作りが行なわれたが、出来上がった各自の茅の輪



御守の輪茅息災無病

の大小、上手、下手に笑い声も出るなど和やかな雰囲気であった。

平成二十一年九月

新居地鎮祭齋行

二日、吉田町二丁目豊永家の地鎮祭が齋行された。豊永氏は、数十年前に(株)永豊興業を興す際、祈願祈禱に参拝してから自宅に神棚を奉斎するなど、特に篤く当社を崇敬している。

この度は市の区画整備事業の関係から西へ約百m移動を余儀なくされ、設計を(株)ロータスに、(株)豊栄建設に工事を請負わせて木造三階建の新居を建設するものである。

当日は豊永家の両親や工事関係者約十二名の参列のもと、設計事務所の新居の鎌入れ、豊永氏の鋤入れ、施工店の鋤入れ等の地鎮行事も厳肅に執り行われ、各位が玉串奉奠して

工事の安全と今後のの弥栄を祈願した。このように氏子崇敬者の

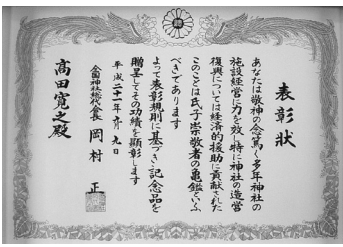


豊永家の地鎮祭

方々で居宅を新築する時は、土地神への畏敬とご守護を祈念する神事は是非齋行して頂きたい、その際は当社に地鎮祭をお申出下さい。新築場所が氏子内外にかかわらず参上し、より丁寧で厳粛な祭典をご奉仕させていただきます。

高田総代表表彰される

当社の高田寛之役員総代が、多年の施設経営に力をいたし、特に造営復興又経済的援助に特別功労のある兵庫県内の総代表として、九日、富山市に於いて開催された第四十五回全国神社総代会大会で表彰された。全国神社総代会は昭和三十三年に、神宮及び都道府県の神社総代会等が一致団結し、相互の緊密な連絡と親睦を図って設立されたもので、同



表彰状

会の目的は神社本庁の施策に協力し、神社神道の昂揚と神宮の奉賛及び神社の護持

に貢献することである。

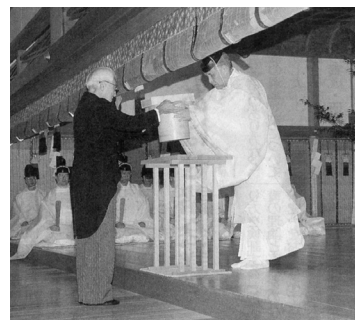
又総代の役割は、「神社の運営について、役員を助け、宮司に協力する」ことであり、その適格者は「氏子又は崇敬者で、徳望が篤いもの」とされている。

高田総代は、父・良一氏と共に神社への敬神の念篤く、又地元自治会等地域社会へ奉仕しつつ、今後共神社の隆盛の為にご尽力をお願いしたい。

神宮の大麻頒布始祭に参列

一昨年より伊勢神宮の二十年に一度齋行される式年遷宮のご奉賛に關しまして、皆々様の心からのご奉賛を賜り、当社の奉賛目標額を達成することが出来ましたこと感謝申し上げます。

神宮も式年遷宮へ向けての第一段として、十一月三日に宇治橋架け替え後の渡始式が挙行され遷宮に向けた国民の気運も昂まっているようです。この度の遷宮奉賛を頂いた方から、先日神宮を参拝した際、三石さんからお届け頂いた特別参宮章で御垣内の参拝が許され、とても感動したというお話をうかがい当社も喜



頒布始祭後大宮司より久邇本庁統理に授与される大麻 (『神社新報』より転載)

んでいる次第です。

ところで、皆様をご存知の伊勢のお札は、正式には神宮大麻と呼ばれています。神棚には、神宮大麻と氏神や崇敬神社の神札を祀るのが正しい奉齋であります。去る九月十七日、神宮では神宮大麻頒布始祭が鷹司大宮司のもと厳粛に齋行され、各都道府県の神社庁に授けられました。その後、各神社に届けられるのです。

今までも氏子崇敬者の各家庭・各事業所が当社より授与されておられますが、まだの家庭・事業所等の方には、是非、日本の総氏神である神宮大麻と三石大神様のご神札を受けられ、一年間平穩にお過ごしあるようご祈念下さい。

西宮神社海上渡御十周年産宮参り

商売繁昌の神で知られる西宮えびす神社(西宮神社)の十周年目の海上渡御「産宮(うぶみや)参り」が二十三日に盛大に行なわれ、神職他三十四名が当社を参拝した。

当日は宮司はじめ総代・氏子自治会役員等十三名が参道で奉迎し、御殿では掛鯛二匹が奉献された後、西宮神社吉井宮司が祝詞を奏上し、参列者代表が玉串奉奠した。

十年前から齋行された西宮神社の和田岬への船渡御は、平安時代から行なわれていたが、織田信長の社領



奉迎の中参進する西宮神社一行

型インフ
ルエンザ
神戸発生
で神幸式
が中止と
なり、奉
仕できな
かった猿
田彦役の
山本昌広
君（二十
歳）が、勇



鳥居前での産宮参り記念写真

の記念齋行となるため、西宮神社の
神輿・だんじり・ギャルみこし等、
供奉員も含め約三五〇名が渡御に加
わり、和田神社駐車場を御旅所とし
て祭典が行なわれた。その際、当社
猿田彦会員八名が奉迎参加し、新



特別参加した猿田彦会

没収で途
絶えてい
たものを、
約四〇〇
年ぶりに
復活させ
たもので
ある。
本年は
十周年目

平成二十一年十月

神道家の納骨式・一年慰霊祭齋行

十日、兵庫区の松田家では、昨年
帰幽された父の墓碑（奥津城）建立
修祓納骨式と一年慰霊祭が齋行され
た。

松田家としては始めての奥津城建
立であるが、神戸六甲霊園での奥津
城の前では、家族・親族十七名参列
のもと、厳肅に墓碑修祓が齋行され
た後、一同合掌の中喪主により厳か
に納骨された。

次に自宅御霊舎にて一年慰霊祭が
執り行われ、御霊舎の開扉に始まり、
父のご生前のご功績を偲ぶと共に、
奥津城建立納骨の旨も奉告され、今
後共にご守護を賜りますよう奏上され
た祝詞の後、各人が雅楽の流れる中、
厳かに玉串拝礼して故人を慰霊した。

壮な猿田彦踊りを披露して万雷の拍
手を受けた。
尚、当社への産宮参りに関しては、
後掲載の「シリーズ・書籍にみる三
石さん―『吉井良尚選集』」で詳し
く述べさせていただいたので、ご一読
願いたい。



新奥津城前での納骨式

秋祭（天照皇大神祭・

神宮神嘗祭遷拝）

齋行と総代会開催

当社相殿に祀る天照皇大神の秋祭
りは、十八日の午後四時半に総代・
監査等の参列のもと初穂をはじめ
マツタケ等の秋の山野の味物をお供
えして齋行し、伊勢神宮も遷拝して
氏子崇敬者の平安と繁栄を祈願した。

天照皇大神を祀る伊勢神宮の内宮
を始め外宮では、神嘗祭は最も重要
なお祭りであり、初穂を捧げ捻りに
感謝する祭典が、十五日より二十五
日までの十一日間にわたり齋行され、
両宮等には勅使（天皇の代理）参向
のもと奉幣祭も執り行われます。

当社では、文化四（一八〇七）年
に天照皇大神を奉斎したことが記録
されています。この和田岬（旧地名
―今和田新田村（いまわだしんでん
むら））が開墾され、農業に従事し
た当時の氏子達が五穀豊穡への祈願
と感謝のために大神を奉斎したもの
と考えられます。

祭典終了後の午後五時より、本年
最後の総代会を開催し、神社の現状
報告と平成二十二年正月三日の「年
頭氏子崇敬者繁栄祈願祭」齋行や、
年間行事（神事）の日程等について
協議した。

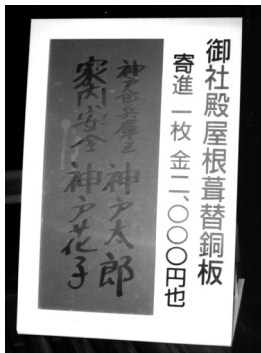
社殿屋根書き替え事業・銅板

御寄進者ご芳名

（含）申込・分納・追加
平成二十年十一月から
平成二十一年十月末日まで）
順不同・敬称略

御社殿屋根書き替銅板

寄進一枚金二、〇〇〇円也



銅板寄進案内板



境内の奉賛芳名掲示板

趣意とお願い

現社殿は昭和三十八年に竣工し、四十数年が過ぎました。銅板の寿命は約五十年といわれています。そこで将来銅板屋根の葺き替えを行なわなければなりません。

そのような事情により、皆様に銅板寄進(一枚二千円)をお願いいたしております。

社殿銅板屋根にあなた様のお名前を残し、更なる三石大神のご加護により、貴社・貴家の益々の弥栄をご祈念申し上げます。ご案内申し上げます。

既にご奉納いただきました方々には重ねてのご案内となりましたことをご了承下さい。

新生児命名

平成二十年十一月から
平成二十一年十月まで

シリーズ

社務所・境内紹介

「神功皇后 錦絵」

錦絵の大きさは、縦三十七・五×横二十五cmで、左上に「神功皇后」と画題が刷られ、黒ぼかしの背景に黒・青・茶色を基調として神々しい仕上がりとなっている。中央に皇后が鎧姿にうつむき加減で、弓を添え矢を背負い、両手で帯に触れている立姿である。両手を佩き、太刀は外装が馬草(うまかわ)包みで、熊の毛皮で作られた毛履(けぐつ)を履いていて時代考証は江戸時代となっている。

作者は五渡亭国貞で、五渡亭は雅号であり、歌川国貞のことである。国貞は、合巻挿絵、錦絵では役者絵、美人画で活躍し、浮世絵の大衆化に乗じて膨大な作画量を誇り、広重、国芳ら他の歌川派の絵師と共に、江戸末期の浮世絵界を牽引した人物である。よってこの錦絵は江戸時代末

期の製作である。

この錦絵は、先代米次郎宮司が昭和四十年頃、当社御祭神の神像画として入手したものであるが、後世に残したいと大切に額装し、現在社殿に掲示している。



神功皇后 錦絵

シリーズ

書籍に見る三石さん

『吉井良尚選集』

本年九月二十三日に西宮神社の「海上渡御和田岬神幸産宮(うぶみや)参り」復活十周年を記念して盛大に斎行されたが、なぜ西宮神社が当社に参拝するのかを、少々長くなるが、『吉井良尚選集』から説明したい。

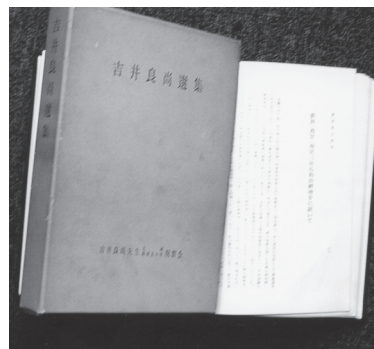
本書は西宮神社の宮司であった吉井良尚氏の古稀・勤続五十年祝賀会が、昭和三十七年九月に発行(発行

者・吉井良地)した書籍である。

「廣田・西宮・南宮三社の和田岬神幸に就いて」の項で、

「少くも寛永の頃(一六二四〜一六四四)には、兵庫への神幸を「産宮参り」といひ慣してゐたといふことである。何故これを「うぶすなまゐり」といふのか。それは此の西宮の地の古来の伝説に西宮神が此の地に垂跡されたのは隣村鳴尾村の漁夫によつて斎かれ給ひ、鳴尾の漁夫は西宮神の御像を兵庫和田岬の沖合に漁りの際に感得したのであると伝へらるゝことから察すると、此の神の御出現の地を和田岬と思ひ定めて斯くは言ひ伝へらるゝに至つたのかと察せらるゝのである。

此の神幸のことは西宮社中の記録、



吉井良尚選集

元龜二（一五七二）年の「廣田社年中御神事」と称するものに「八月廿二日大輪田御神幸」と記され、同年の「西宮殿年中御神事」八月廿二日の条に「大輪田御神幸」とあるのみであった。（中略）

神幸の時代に就いて（中略）、それを中山忠親の日記である山槐記に見出すことを得た。即ち同記治承四（一一八〇）年八月二十一日の条に

今日神輿令出輪田御崎給、亥刻許還御本宮 在人等云オレソキ 於輪田有御祓也云々御禊敷

とある。正に治承四年にも行なわれたことが明示されてゐるのだ。

降つて白川神祇伯資忠王記に

応永二十（一四一三）年八月二十二日（中略）

即ち応永度にも相不変行はれてゐたことが明らかとなつた。（中略）

扱て次は兵庫和田岬に於ける神幸の現場は如何といふことになるが、西宮神主家日記の宝暦（一七五五）五年三月廿日の条に神主吉井良行は左の通り記してゐる。

一、廿日神主、社家、祝部中、辻佐内致同船、兵庫和田崎往昔御神幸之社跡相尋候、清盛公之石碑之前通り往還同前之南北に付候道筋、

浜の方に三四町行候へば、八間四方計小松原に成居候。所之者は祓殿と申候由云々

記事少し簡単に過ぎて地点の個処をはつきりつかみ得ない憾がある。

「西宮大神本紀」の絵に神輿が兵庫和田崎に御駐輦の処を描いて、御輿三輿をそれぞれ奉安せる三つの石が描かれてゐる。即ち廣田・西宮・南宮三社の神輿である。これを三つ石と呼称したのである。

摂津名所図会に

和田三石 和田社の南、田の中にあり。三石祠は和田新田にあり。

産婦祈願すれば臨産に難なしとぞ諺に云ふ。昔推古帝の御時夷賊退治のため此浦に行幸あつて禊し給ふ。今此祠を祓殿塚といふ。帝玉

座し給ふ石を三石といふなり。此時より和田の御崎と御の字を書き初めしとかや。

とあるが如何であらうか。推古天皇などを持出したところは妄誕であること勿論だが、祓殿塚は恐らく宝暦

五年の時代の祓殿のことであらう。

三石の名を負う地は三度替つてゐるとのことである。現在和田神社

の隣地に三石神社があるが、元来

は此地より東南約五丁許の所にあ

つたさうである。これを土地では元三石と称した。伝によれば享保七（一七二二）年七月兵庫の人井

上八郎右衛門が今和田新田を開発した時に元三石を今和田新田の美

地に移したのであつた。然るに明治三十九（一九〇六）年の頃鉄道

用地となつた為、又もやこれを和田宮の隣地に移したのであるとい

ふ。

宝暦五年に西宮神主が踏査した時は享保七年から三十三年を経過し

た時代だから恐らく今和田新田に存在した時代に当るのであらう。

前記名所図会の記載は寛政年度の事実であるから今和田新田のことを書いたものと思ふ。

以上、西宮神社の「産宮参り」は再興十年目であり、一般には余り知られていないが、西宮のえべっさん

と三石さんとの関わりがよくご理解頂けたと思います。

注・（）内西暦年は筆者挿入

平成二十二年の神社神事・行事予定

一月一日 歳旦祭（初詣）

三日 氏子崇敬者繁栄祈願祭

（西田先生神劍斬奉納）

四月十八日 氏子総会（例大祭関係）

五月十七日 例大祭（神楽奉納）

二十二日 地区子供みこし巡幸

二十三日 神幸式（おわたり）

六月十三日 氏子崇敬者親睦旅行

（吉備津神社参拝・岡山方面）

七月十七日 夏越祭

（琉球舞踊奉納・茅の輪くぐり）

十八日（茅の輪くぐり）

九月二十三日 西宮神社産宮参り

十月十七日 秋祭（天照大神祭）

十一月 月次祭

各月一日 月次祭

印刷所

(有)前川企画印刷

神戸市兵庫区永沢町二丁目三十一

TEL (078) 5777-2488

FAX (078) 5777-7330